



三良坂市街より望む三良坂市街  
ライオンセンターより望む三良坂市街  
三良坂市街より望む三良坂市街  
双三郡三良坂町全図



第4号

昭和49年8月1日発行

発行人

得能長絃

編集人

永井又太郎

印刷所

三良坂町三郡双三郡三良坂町

三良坂町三郡双三郡三良坂町

三良坂町三郡双三郡三良坂町

参議院選挙をかえりみて

得能長絃

この度の参院選挙では、丸茂候補が地方区より全国区にわられて立候補されると言う事は、早くから知られており、広島県は特に得票率を有望視され、告示以来、私は体の許す限り会員の間を廻って運動をお願いして来ましたが、激励の為各会員の家を訪問して、二十数年前の、昭和二十五年の県知事選挙を思い出して来ます。

当時、圧倒的な勢力を持っていた故小谷伝一県会議長を中心とする政界、地方自治体の旧勢力の推す和久田副知事に対し、元県医師会長の大原博夫先生を応援する広島県医師会員は、文字通り一致団結して闘い、予想を覆えして、五万票対三五万票、と言ふ大差をもって、見事に当選した選挙

戦の時の事である。時の双三郡医師会の主脳である日下部、森戸先生等が、三良坂町を運動して、徒歩で吉舎町に入ってきたのを、吉舎、三良坂町境迄お迎えに行つて、一緒に吉舎町を、メガホンで連呼して運動して廻ったのが、つい昨日の様な気が致します。私も、殆んど毎日、午前中診察をそこそこに済ますと、午後は他の先生方のお伴をして、当時は連呼が許されていたので、メガホンを持って夜遅く迄、吉舎町内を叫んで廻ったものであります。

この選挙の大勝が、広島県医師会の名を全国医師会に轟かせ、広島県医師会は選挙に強いと言う定評を受けた初めでありました。

此度の丸茂参議院の選挙は、広島県は、全国で得票数第三位で、實力の程を示したが、我が双三地区医師会は、残念ながら県内二四地区医師会中第一九位で、一人平均得票数一三・五票で、県医師会一人当り一八・六票を下廻り、地理的位置から、隣郡医師会、隣県医師会の得票の中に、我々の努力票が多少は入っているとは言ふものの、芳しからぬ結果であった。

この度の選挙を顧り見て、つくづく時代の変遷、世相の移り変わりを、身にしみて感ぜさせられると共に、我々医師会員の選挙に処する心構えも、時勢の流れに依りて行かねばならない事と痛感させられます。

医政が医師にとってどんなに大きな影響があるものかは、云々する迄も無い事であるが、今後、医師は好むと、好まざるに拘らず、

益々選挙に拘りを持たざるを得ない状況となり、若し選挙から遠ざかれば遠ざかる程、医師会の将来は暗いものになるであらう。

私は、この度の選挙で運動の方法について、色々と教えられる事がありました。一例をあげますと、創価学会と本願寺との比較であります。色々と批判はありましたが、結局、創価学会は当選して、本願寺は落ちていた点であります。

今迄、我々は診察室内を主戦場にして運動して来ましたが、然し、これからは街頭に出るの運動が主体となって行かなければ、票は次第に減って行くであります。

次の選挙は又きびしいものになるであろうし、その次の選挙はもっときびしいものになるのであります。

私は、若い先生方に特に希望致し度いと思ひます。選挙運動は、将来を持った若い先生方の為のものであると言ふ事でありました。

この次の選挙には、一層奮励努力しようではありませんか。

参考迄に、丸茂候補の今回と、八年前の得票数を掲げて置きます。

地区別	得票数	8年前の得票数
広島県	35,613	22,137
三良坂市	807	959
三良坂町	377	397
三良坂町	187	142
三良坂町	44	46
三良坂町	78	154
三良坂町	60	96
三良坂町	45	96
三良坂町	16	28

# 随筆 ずいひつ

栗本清次

甲冑は言う迄もなく、身体を守るために作られ、その時代時代の金属、糸、染色、漆、皮革等の工芸技術の総合体であり、加えて民族的装飾性を最大に現しております。着用者の側からは先祖伝来の、武門の象徴、武功物語等の喜劇ともいえる由來も込められ、武者が戦場に於いて自己を表現すべき神聖なる晴着であります。

時代は下りますが甲冑に対する一つの暗示を与えられる話がありますので紹介します。江戸中期の六代家宣、七代家継將軍に政治最高顧問として重用された新井白石の「折りたく柴の記」に、火災に遇って家を失った彼のために、仮の家を建てて費用にせよと將軍家より黄金五十兩を頂戴したが、御志を最も有効に生かすために鎧一領を作った。紺糸織の鎧(恐らく最高級品ではなかったでしょう。)であり、それと後に頂いた御太刀とを嫡流の家に伝えると記しております。当時は元禄十一年で政治的、経済的に一応の安定期と推察されますが、その時期、彼の立場にしてしかも鎧を作った事に、鎧の意義について教示を受けるものがあります。

古代及び奈良期のものは別として、現在私共が鑑に抱いている形態が現われてくるのは平安時代中期とされております。その後武器の進化、戦争技術の発展、変化つれて鎧も移り変わっており、徳川將軍家の基礎を定めた大坂陣、島原の乱を最後に日本甲冑の実用時代は去りました。

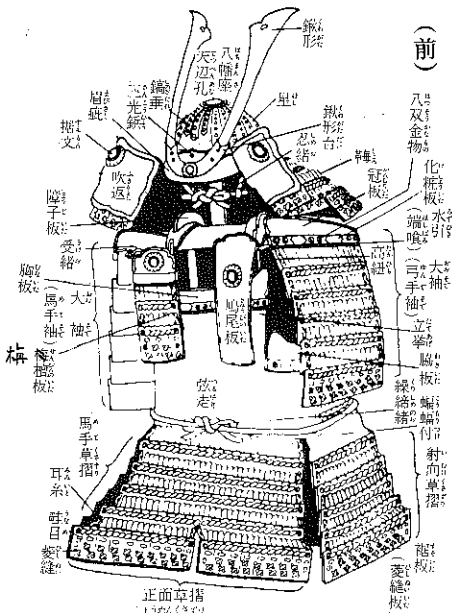
先ず始めに、騎馬での射戦(弓)に適したように作られ完成したのが大鎧(日本甲冑の代表様式と言う意味で正式鎧とも言う)で、兜は厳星鉢、鞆は杉成り櫛板がりにしたものを装用し、胴は前面に板走車と言う面革を張り、

前、左脇、脊面にかけて一連となり、右脇は着脱出来る脇板をあてて塞ぎ、草摺は前後左右の四間、肩上に頸部の守りの障子板、両肩に大袖、胸部の左右に鳩尾板、柄板板を用い、多様な緋糸の配色の妙を得て高級武將の着用にあつたらしい、美しいものであります。次に脇板を略し、一連の胸が右脇で引合せるようになり、草摺は七間に別れた胸丸鎧と言ふべき、後述の胸丸との併用様式も作られました。

胸丸は大鎧に平行して着用され、右脇で引合せる様式になっており徒歩に便利なるように草摺は八間に分け、綿嚙に木葉型の杏葉をつけて肩の防ぎとしております。当時は主に下級武者に着用されましたが、南北朝前後よりその軽快性のために兜、大袖を具して高級武將用にも盛んに使用されるようになりました。

腹巻は背後に引合せがあり胸丸よりも更に着脱が便利で、小型に出来ており本来は衣服の下に着用して非常の場合に備えたものかと考えられますが、室町時代中期頃からは、袴が笠状に開いたアコダ型の覆輪筋兜、小星兜及び大袖史には臆病板を具して重武装用として武將にも好んで使用され遺物も可成り認められます。

## 大鎧 (前)



戦国時代に鉄砲が伝来し団体戦が戦いの勝負を定めるようになると、鎧は鉄を多用して更に堅固に、需要の増加のため簡略合理化されましたが、個人が存在が人目を引かぬために変った甲冑が要求されました。その改進黨な鎧は当時にも当世具足と呼ばれましたが現在もその名で言われております。種類も最上胸、丸胸、南蛮胸、仏胸、二枚胸、五枚胸等々大別しても十指にあまりものがあり、兜は小星兜、筋兜、維新兜の外に桃型、鳥帽子型、置手型の外に変わり兜と呼ばれる多種多様な個性的な兜が着用されております。

江戸時代中期頃からは次第に武門の象徴として華美な復古調の鎧が重視されるようになり、紙面の都合にて詳略致します。

当医師会理事水井先生の強要により歌文をのりしましたが、現代は機械文明の余波を受けて、手作りの美術工芸品の保存が軽ろ考えられる傾向にある事のないものであり、その保存には呉々も留意して頂きたいと思ひます。

## ブロック便り

### 倉橋島釣行記

しのめ医会 高場賢治

しのめ医会とは旧八次から、三良坂までの旧東部医師会のメンバーが親睦と相互の研修を目的とした、ささやか乍ら和気と信頼でしつかりと結ばれたグループなのです。結成から約十年。毎年大学の先生を講師としてお呼びして、研修会を開いたり、大型バスに僅か十名たらずのって、一泊二日のレジャーを楽しんだり、海での釣約を楽しんだり、そうして十年が何時の間にか経ってしまいました。

去る八月十、十一の両日、横山、林、佐竹、今井の四先生と私、それにケンコー産業の従業員二人、で倉橋島鹿老渡での釣行に出かけました。十日後三時、塩町横山医院前を出発、午後六時、目的地に到着、同夜は新鮮な「ハゲ」の洗い料理に舌つづみを打ったのです。

翌十一日、天候は稍曇り気味で、風速五米、潮は小潮、ますますの釣り日和でした。鹿老渡は倉橋島の南端にあり、午前六時出発、エンジンの音も高らかに紺青の海を一路南下する事約一時間十分。この辺りの海は本当に綺麗な公害を忘れさせるような海で我々の目を楽ませてくれます。大小さまざまの鳥のたたずまいに時のたつのを忘れていた所は愛媛県温泉郡の鳥かげでした。

鹿老渡から、ここまでの間には

鎮痛・抗炎症剤

**ノンフラミン**®カプセル

一般名=塩酸チノリジン (単位当り) ¥28.00

製造=吉富製薬株式会社  
販売=武田薬品工業株式会社

消化器系薬品 新薬新剤 Daijin

上腹部痛に制酸剤の効果持続に...

**ダイピン錠**

一般名メタレスコボロピラミン・メチル硫酸塩識別番号106

第一製薬株式会社 東京都中央区日本橋三丁目14番10号

CERMエリム・フランス製薬品

随分と良い漁場がありますが、これらは愛媛県漁協の縄張りで広島の舟はオフリミットと言う事です。午前七時すぎから、糸をおろしました。この頃から風波が稍強くなり舟もかなりゆれる事もありました。風と波は矢張り魚の喰いに大分こたえます。然し真青な海を眺め乍ら指先に伝わる心地よい魚信をまつ気持は、何とも言えませんが釣の妙味まさにここにつきるとも言えましょう。

はせ、ハゲ、メバル、カサゴ、青ガザミ等がかなり「生けす」にたまった頃昼食。船頭さんが、用意して来たホヤホヤのませ飯の美味い事。

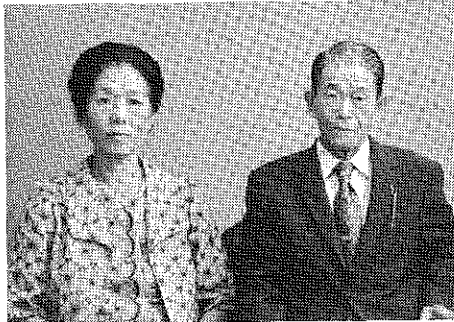
午後も釣り場をてんでんと変え乍ら、ひたすら魚信を求めて懸命に投げこみました。朝六時に舟にのって、それこそ昼飯以外は飲まず食わず、小便もろくにしないで、延々九時間。お互に物も言わないで、精出したものです。その間釣る事以外は何も頭がない。釣れても、釣れなくても、唯無心に糸をたぐる。本当に釣りっていいですね。波が荒かった故で、随分針がきれました。長い舟釣の中で、こんなに針がきれたのは初めてでした。この日は主なものは「ハゲ」大分形の良いのが随分ありました。午後三時、糸をおさめて帰途につきましたが、風波が段々大きくなりうねりも大きく、帰途の一時間、波しぶきをあげて走る爽快さは何とも言えぬ心地よさでした。一行は二隻の舟に分乗したのですが、林、佐竹先生の組の釣果が私達よりかなり良かったようです。この日の二隻の釣果二〇〇匹。天候の割には良い成績でした。



岡崎利之先生

明治三十三年十一月十日生  
三次市十日市町  
療養先 双三郡布野村岡崎別宅

布野小学校を経て旧三次中学校卒  
大正十五年現大阪大学医学部卒、  
後同大病院及び神戸市堀田病院にて内科、小児科及び細菌学研習する途中で両親が泣いてどうしても帰郷を頼むので、私が一人子であるので遂に承諾しまして、昭和五年布野に一時開業しましたが、中学時代の同窓諸兄が県北中心地三次で是非開業することを申されたので決心し、昭和七年一月に三次十日市に内科小児科にて開業し



山中克己先生

四十年近く診療に従事し、その間双三、三次のPTA連合会長を十年間と双三、三次学校保健組合会長二十年間選ばれて世話させられ、多忙の傍ら診療に元気でやっておりますが、巴杏第二号でお知らせした通り、昭和四十五年一月三日に大病発症し、幸いに死線は越えましたが、以後医院経営を外科の長男に譲り、布野にて妻と二人で暮らし療養中であります。尚歩行不自由で不便です。もう少し恢復して三次に帰り、会員の皆様と共に遊び、共に語り手をたずさえてもらい、老後を暮らしたいと思っております。

私の方、家族状態を一言述べて見ましょう。妻と三男三女全部結婚して孫十四人おります。長男三次に、次男は大坂池田市、整形外科科本年五月開業、三男は千葉大関係で船橋市中央病院整形外科に勤務中であります。

明治三十八年八月一日生

住所 三次市大田幸町一三四六  
千葉医大卒―同第一内科副手―  
東京杉並区浴風会病院勤務(財団法人)―応召―郷里開業(昭和二十一年)

家族

妻 山中幸子(67歳) 家業手伝  
長男山中律雄(41歳) 工科卒  
東洋工勤務(広島市外在住)  
長男妻山中弘子(36歳) 主婦業  
孫 男女各一名  
本人趣味 草花鑑賞  
現況 内臓大略健康です。

三島橘二先生



生年月日  
明治三十九年三月五日生  
現住所  
双三郡作木村下作木二六九の八  
最終学校 京都府立医科大学卒業  
卒後経歴  
母校外科教室在籍、伏見病院外科勤務  
爾後経歴  
広島県欠いで島根県開業  
昭和十三年十一月渡満  
昭和二十八年七月七日中共引揚

昭和二十八年九月現住所開業  
家族構成 妻と二人暮らし。一女  
あるも日立造船技師と結婚

〔随筆〕回想録

光陰矢の如く人生又夢の如し。一年有半にして將に古稀を迎えんとするに当り近古を偲ぶ時、凡ては次の道であり最も大きな事柄は戦争に関連したものであると思つ今日だから言えるのであるが、満州事変は毎年のように広島軍医団司令部より野砲第一〇五聯隊大隊付の内達書を受取っていたので内心、心穏やかではなかつた。

昭和十二年七月七日終に満州事変を皮切りに戦は拡大され、同年十月一日軍医予備員令の発布により第一回教育召集に応募して十五日で帰ってきたが、次から次とその中から召集されて行く事を知り、やがては自分にも来るであろうが野砲陣地は敵の爆撃目標となる故行つたが最後に底生還は考えられぬと思ひ、終に渡満を決意実行したのであった。その後ノモンハン事変があったが、満州での生活は概して呑気であった。二十年四月六日未明、元共産匪であった百姓を検察庁が百数十名日本の敗戦を憶り留置場に入れていた連中が、警察官(元共産匪)の裏返りにより日本人皆殺しをモットーとして日本街を襲撃、約三十数名の死者を出した。

二十年八月九日ソ連が対日戦宣言告をした為同日全員召集令が下つたが、幸いにして自分は即日解除者の中に入れられ、又生き延びる事となった。その後ハルビンにて一年間を妻と共に難民生活を送つたが、その間に発疹チフスに罹り三途の川を行つたがこれ又幸いにして再びシヤバに帰つたのである。二十一年八月日本人帰国の報に接し嬉しい事この上なく喜んだのであったが、此処に又不幸が無い込んだ。それは八路軍司令官名で僕の姓名を入れた留用命令書に接したのである。この時程腹立たしく、悲しく頼にさわつた事はない。逃げて帰ろうとしたけれども、護衛兵に守られては何ともできなかつた。仕方なく八路軍に入り引廻される事満七年。働かざる者食うべからずをモットーに、マルクス

レニン主義を教育され赤大根とならざるを得なかったのである。衣食住は悪いものながら保証されてはいるもの、考え方によって自分の考え方の自由、或は欲する行動の自由は許されないで、綱で引廻され鞭で尻を打たれる牛馬同様とも思われるのである。

留用中の事については色々あるけれども、之位にしてきて二十八年七月七日新舞鶴に上陸し、義弟に迎えられ、引揚寮を出て町の旅館の一室で日本酒を一杯傾けた時の味よき。伸々とした気持は未だに忘れ得ぬ事の一つである。

帰国後に感じた事は敗戦が然らしめたのかも知れないが、実に自由な事であり、寧ろ奔放な位とも思われた事である。然し現在漸次新民主主義の発展と共に世相も変わりつつあるけれども、共産主義の主張の良さをのみみて深く考えず、極度の左傾に走る事は考えものである。大きな意味の計画経済は或程度の自由経済を組合せてこそ真の自由が得られると考えざるを得ない。自由を叫びながら実は人間の自由を剥脱するような事にならない事を祈るものである。

# 医師会だより

(昭和四十九年六月〜昭和四十九年八月)



- 6月6日(木) 自動分析装置据付け
- 6月13日(木) 広報担当理事会、田中先生出席 於・県医師会館
- 6月18日(木) 学術講演会、大日本製菓主催、午後七時
- 於・双三地区医師会館
- 演題と講師 「第二回 肥大心電図と弁膜症」
- 広大第一内科、助教 吉田正男先生
- 6月20日(木) 広報担当理事連絡協議会 午後三時
- 於・県医師会館、佐伯先生出席
- 於・双三地区医師会館
- (子鹿学園開園式)
- 6月28日(金) 循環器疾患予防対策モデル地区打合せ会。布野村指定
- 7月7日(日) 参議院議員役票日
- 7月18日(木) 学術講演会、大日本製菓主催、午後七時
- 於・双三地区医師会館
- 演題と講師 「第三回電解質代謝異常の心電図とジギタリス中毒」
- 広大第一内科、助教 吉田正男先生
- 7月20日(土) 広島県医師会連合執行委員会に会長出席。又、郡市地区広報担当者合同会議に田中理事出席
- 7月21日(日) 県下女性医師研修会
- 於・双三地区医師会館
- 7月23日(火) 広島医学技術専門学校生、津島千代子(三和町出身)実習

- 7月26日(金) 元県医師会長田坂三友先生告別式
- 於・県医師会館
- 7月27日(土) 第一回理事会
- 。参院選挙の結果について
- 。建設負担金借入金利率引上げについて
- 。地対協よりの補助金の件
- 。センター機械器具損害保険加入について
- 。山林購入の件
- 。長岡院長より、結核病棟縮小の件
- 7月29日(月) 名古屋医学技術専門学校生、錦織啓子(君田村出身)実習
- 8月3日(土) 広島医学技術専門学校生、塚村裕子(三和町出身)実習
- 8月15日(木) 8月16日(金) センター休業
- 8月16日(木) 佐々木務先生母堂葬儀。於・専法寺
- 8月22日(木) 学術講演会。午後七時。於・双三地区医師会館
- 大日本製菓主催
- 演題と講師 「心不全症」について
- 広大第一内科、助教 吉田正男先生
- 8月28日(水) 第六回「巴杏」編集委員会。午後七時〜八時
- 於・石田無線階上
- 出席者、田中、永井理事、小川泉、箕岡各先生、中西事務長
- 協議事項
- (1)表紙写真掲載：三良坂町田中先生交渉
- (2)学術関係資料：長船理事、箕岡先生で、広大吉田助教に原稿を依頼し、不可能な場合は、万止むなく中止する。
- (3)得能会長：参院選挙の結果の反省について
- (4)随筆

- 岸田、栗本先生：永井理事交渉
- (5)医師会だより：永井理事担当
- (6)会員紹介 岡崎利之、山崎、箕越、山中、三島各先生
- (7)ブロックだより 東雲会(高場賢治先生) 田中理事交渉
- (8)原稿用紙配布、三ノ四枚
- (10)中村重孝先生、三号随筆中一部訂正次号掲載のこと。
- (永井記)

## お詫び

「巴杏」第三号二頁、随筆の項に中村重孝先生のご投稿下さった「五十年の思い出」の内、二段目十六、十八、十九行牛煮と掲載しましたのは、牛黄の間違いでした。慎んで訂正致します。

## 編集後記



草むらに泣く虫の音を聞くにっけ日一日と秋の深まりを感じる昨今です。

本日、私達の「巴杏」第四号をお届け致します。今回は、学術紹介ができなかった事は、些か残念ですが、会員紹介に当り奮ってご執筆下さった諸先輩の園手に厚く御礼申し上げますと共に、本会報の育成にご協力賜わった会員各位のご厚志に心から感謝致します。

向冷の朝、ご尊体ご自愛を祈りつつ。

(永井記)

新炎症・腫脹緩解酵素剤

# ターゼン錠

「タケタ」 消炎・腫・血腫・粘液融解

武田薬品工業株式会社

抗動脈硬化剤  
抗キニン性・抗遅延型炎症反応因子性  
血管透過性亢進阻止剤

# ANGININ

ANGININ錠

BANYU PHARMACEUTICAL CO., LTD